『主が呼んでおられる』（サムエル記 第一 3 章 1-10 節）2023.1.8.

＜はじめに＞ 神様に語り掛けて、祈り願う人は珍しくありません。しかし、私は神様から声をかけられて呼ばれた、と言うと、多くの人は怪訝そうな顔をするのではないでしょうか。この箇所には、神なる主が少年サムエルを呼ばれています。そして、主は今も呼び掛けておられます。

Ⅰ　物語の振り返り

①少年サムエルの生活(1-3)

サムエルは誰と生活していましたか。その人はどんな人ですか(1:25-26)。
サムエルはどこで寝起きしていましたか。そこには何が置かれていましたか。
サムエルは誰に仕えていましたか。彼の役割はどんなことでしょう(3,出エジプト 27:20-21)

②ある夜の出来事(4-10)

眠っているサムエルが呼び起こされたとき、彼は誰が呼んでいると思いましたか。
サムエルを呼ばれたのは実は主でした。何度、主はサムエルを呼んでいますか。
次に主がサムエルを呼ばれたときに、エリはサムエルに何と答えるように教えましたか。

③この物語の背景

その頃の様子で、聖書はどんなことを記していますか(1)。
この出来事の時のサムエルについて、聖書はどんなことを記していますか(7)。
この出来事を通して、サムエルは主がどんな御方だと知ったでしょうか。

Ⅱ　主は語り掛けられる

①主に語り掛けられる人

祭司の役割は、民のために主の前に祈りとりなし、神のことば・思いを取り次ぐことです。しかし、神は祭司エリを呼ばれずに、直接少年サムエルを呼ばれます。主のことばが示されるのは、立場・役職にかかわらず、主が望まれる者には誰にでも、です(民数記 11:29)。

②その名を呼ばれて

主はサムエルの名を呼んでおられ(10)、彼は主が自分に語られていることに気付きます。主はその人に特別に語り掛けられます。その方法・状況・内容は様々です。自分の経験、人々の証言、聖書の物語から、主が個人的に語られる様子を知り、深めたいものです。

③最初の経験を大切に

サムエルは初めて主のことばを聞く体験をし、それを後年書き残したのがこの箇所です。聖書にはこのような経験をした人たちが数々います。訝しがったり、神秘的に思うかもしれませんが、実は主から語り掛けられることは、極めて自然なことだと聖書は証言します。

Ⅲ　主のことばを聞いたなら

①最初は分からなくても(4-8)

主から 3 度呼ばれても、サムエルは全く気づいていません。エリはようやく気付きます。分かるまで忍耐をもって主は語られます。これは私たちにも希望です。やがて、経験を重ねるうちに、主が語られることを受け取り、主と語らう関係へと主は引き上げてくださいます。

②しもべとして聞く(9-14)

エリがサムエルに教えた応答(9)は、私たちにも有益です。主が語りたい、伝えたいことを十分に聞く姿勢を整えましょう。自分の願望、祈りを神に聞いてもらうばかりになってはいないでしょうか。語られることが全部理解できなくても、聞いて受け取っているでしょうか。

③聞いたことを伝える(15-20)

主から聞いたことを主を知る信頼できる人と分かち合うことで、より理解と納得が深まります。「その方は主だ」(18)と共にうなずけるならば、幸いです。もし、そうでなかったなら、それぞれ持ち帰り、更に祈りつつ主に尋ね、祈り、聞くこともできます。これも教会の役割です。

＜おわりに＞ 主のことばは、限られた機会・方法でしか聞けないのではありません。一人ひとりに主は語り掛けておられます。それをキャッチし、分かち合うことで、主の御思いと計画をより深く知り、その実現に向けてともに進ませていただきましょう。(H.M.)